

平成24年度版 NEW CROWN Q&A

● 1,200語の選択の基準は？

主要辞書の頻度ランクや、学習者コーパスなどの各種データを利用して、「今後英語を使う上で頻出するため、初級の段階で覚えておくべき単語」と「中学生の日常生活を考えたときに、表現したい確率の高く、覚えておきたい単語」について分析しました。その中から頻度の高い順より、「最重要語」「重要語」「その他の語」のランク付けをし、Words欄の点線の上に、最重要語は太字、重要語は並字で、点線下にその他の語を並字で明示しました。

● 分量が多いのでは？

新しい学習指導要領では、週の指導時数が3時間から4時間へと変更になります。また、教育行政側からも「質・量ともに格段に充実した教科書」を求める提言がなされてきました。新しいNEW CROWNはそれらに対応するために、全体として現行版から約2割の増量を図りました。

現行の学習指導要領下では教科書をこなすのも時間的に厳しい、といった声が聞かれることもあります。そこで、「各学年のLESSON数は増やさない」、実態に合わせて弾力的に運用できる「活用や付録部分を増やす」、さらなる増量に応えられるよう「必修ではない選択的な位置づけのTryや付録を増やす」ことで、さまざまな要望に柔軟に応えられるようにしました。

また、原則として1見開き2時間を想定したパート構成とし、1年88時間、2年87時間、3年85時間と、年間140時間のうちの60%強の時間配当で、余裕を持って取り組めるよう配慮しました。

● Mr. Mrs. Ms.などの省略記号やtoo, thenなどの前のコンマがないのはどんな意図があるのですか？

教育的配慮からです。イギリス英語ではMr./Mrs./Ms.の省略記号(.)はつけないのが普通です。tooやthenの前のコンマは、英米ともに両方の用法が見られます。学習上の負担を少しでも軽くすることを考えて、省略記号やコンマをつけない用法に統一しました。

● 2年の受け身は3年で学習してもよいのでは？

受け身形には動詞の過去分詞形を用いますが、この過去分詞形は学習者にとって負担の大きい学習項目です。受け身形の文のしくみや概念と同時に、不規則変化のある過去分詞形をも学ばなければならないということで、ていねいに扱うべき項目と考えました。

3年になるとすぐに現在完了形が出てきますので、過去分詞形に慣れておくために、2年の最後に受け身形を配当し、さらに3年のLESSON 1で復習として受け身形を扱い、ていねいに繰り返しながら定着を図ることができるよう配慮しています。

● GETの本文とUSE Readの本文の違いは？

GETの本文の目的は文法の導入や習得です。ポイントとなる英文にコンテキストを加え、ポイントの文がどのように使われるかを示した英文だといえます。また、生徒が暗誦したり、自分に合わせて語句を入れかえたりして、表現活動に結びつけるためのモデルとなる英文でもあります。そのため、GETの本文は1年から3年まで1つ30語前後で構成されています。

USE Readでは、英文を一字一句までを吸収する必要はなく、読む作業を通して習得した文法事項の復習や定着を図ります。つまり、読むことに特化した活動を行うことができる、いわば「読むため本文」といえます。この本文では、読むスキルを育成するためのトレーニングや、現実世界で行う読みのリハーサル・シミュレーションができるようになっています。